

【質疑応答】

≪学校の臨時休業等の状況について≫

N H K 新型コロナに関してちょっとお伺いしたいんですけども、先月 26 日〔正しくは 2 月 4 日〕に文〔部〕科〔学〕省の方で全国の公立学校の休校数だったりとかというのが発表されていると思うんですけども、広島県内では学校全体が休校になっているのが〔1 月〕26 日の時点で 15 校、特定の学年だったりとか学級を閉鎖しているのは 91 校となっているんですけども、こちらについての受け止めをお伺いしたいのと、あと、感染対策であったりとか、学習の機会をどう守っていくかという対策についてもお伺いできればと思います。

教育長 はい、まず受け止めでございますけれども、新型コロナウイルス感染症の影響によって学校がお休みになってしまうということにつきましては、残念ですけど、感染を予防するという観点で仕方がないかなと思っております。全体を〔一斉に〕閉めないということにつきましては、やはり、子供の心の問題が非常に大きいかなと思っております。〔学校を〕一斉に閉めてしまうと、じゃあ今度一斉にいつ開けるのかという判断は非常に難しいものとなると思っています。今、大変感染者も多い状況で、早く収まらないかなというふうにみんな願っているわけですけども。〔学校を〕開けたり閉めたりになってしまいますけれども、感染予防しつつ、子供たちの心のケアをしつつ、学びを止めないということで〔学校が〕閉まった時には、もちろんオンライン〔による学習〕をやっていくということで、学びを止めないという措置は必要でしょうけれども、そういう意味でなるべく通常どおりのですね、学校生活が送れるようにと願っております。

≪学校における感染対策について≫

N H K 追加になるんですけども、具体的な感染対策としてはどのようなことを考えていらっしゃいますか。

教育長 はい。オミクロン〔株〕だからといって、今までの感染対策と変わらないということはあると思いますけれども、より一層みんなで注意していくということです。ただ、〔対策期間が〕長くなっておりますので、やっぱり収まった時にはですね、運動会とか、修学旅行とかそういう行事なんかもしつつ、今はちょっと大変な時期なので、そこについては止めましょうと〔いうことも考えられる〕。あるいは、音楽の授業〔での感染対策〕の在り方であったり、あと、昼食のとり方ですね。ここについては、学校の方も十分に感染対策をしていると思いますので、更にとということになりますと、もうこれ以上はちょっと大変だよということにはなると思います。兎にも角にも早く収束の方向に向かってくれて、少しでも子供たちが日常を取り戻せるということが大切かなと思っております。

N H K 学習に関してはタブレットとかを用いてというようなイメージですか。

教育長 そうですね、はい。タブレットだけではないと思います。タブレット〔を用いた学習〕に適さない発達段階のお子さんいらっしゃるとは思いますけれども、リアルの対面と、それからオンラインを併用して、ハイブリッドな形で学習を止めないということが必要なのではないかなと思っております。そういう意味では、このコロナ対策を始めて、時間も長く経っておりますので、学校の方も、児童生徒の方も、学習をどうやって止めないのかということについては、慣れてきたというところもあるかと、一定の落ち着きを見せ始めているかなと思います。やはり子供ですから、対面での学習とか、あるいは体験ですね、これはやはり発達段階において必要なことだと思っておりますので、ここは今後、収束したときにどうやって担保できるか

なというところが課題かなと思います。

《児童生徒の感染者数について》

読売新聞 県立学校のコロナ陽性者について、毎日資料提供いただいているのですけれども、感染〔者〕が増え始めた今年に入って〔陽性者数の〕累計というのはまとめていらっしゃいますか。

教育長 担当課の方でまとめています。

川越豊かな心と身体育成課長代理 1月以降、県立学校で約700人ぐらいの感染者を確認しております。

読売新聞 これは児童生徒ですか。

川越豊かな心と身体育成課長代理 児童生徒です。1月の発表分〔県教育委員会が公表したのが1月であるもの〕では児童生徒625名。教職員は66名になります。

読売新聞 今は〔感染者数が〕増える傾向にあるのでしょうか。それとも減っているのでしょうか。

川越豊かな心と身体育成課長代理 横ばいといったところです。

読売新聞 あと、県立学校については今教えていただきましたが、市町教〔育〕委〔員会〕の管轄である公立小中学校についての感染者数はまとめていらっしゃいますか。

川越豊かな心と身体育成課長代理 はい、これからまとめますが、今はまとめたものはありません。

読売新聞 もし、最新の数値がありましたら教えてください。

教育長 人数につきましてはまだ高止まりというような状況ですので、引き続き感染対策を図っていく必要があると思っております。これについては、学校の方にはもちろんお願いはしていますが、これ以上何をしたらいいんでしょうかということだと思います。私たちも日常生活の中で、やはり生活という部分があるので、当然のことながら〔対策の必要性も〕感じているところだと思いますけど、あまり子供に言い過ぎても、大人以上に心配しますので、ここの部分は大人として鷹揚に構えていかないといけないところもあるかと思っております。

《学校における感染対策について》

中国新聞 先ほどの冒頭の質問の中でですね、コロナが収束した時には運動会とか修学旅行を〔通常どおり実施するが、〕もしかしたら〔今は〕止めましょうということになるかもしれないとおっしゃっていましたが、それは県教〔育〕委〔員会〕として県内の学校に修学旅行なり運動会を中止、延期してというふうに通知というか、そういったものが出されるというお考えでしょうか。

教育長 それはちょっと考えてないんですけど。これは、むしろ個人的にですね、やはり体験活動がなくなっていくということは、子供たちの気持ちを吐露する〔コミュニケーション能力を育む〕場面というのが、一つ二つなくなったということなので。運動会、あるいは修学旅行だけじゃなくてですね、いろんな教育活動の中で体験活動というのがあると思うんですけど、それがコロナ感染対策によってなくなっているのであれば、少し復活をすとかということが必要なのではないかなと思っています。それは、学校の先生方もできることならやってあげたいと思っていられると思うので、何か通知を出してというよりも、地域のお考えですとか、あるいは感染状況によると思いますので、その部分は学校ごとにお考えいただくことであるかなと思っています。

《不登校児童生徒数の増加について》

H T V 文〔部〕科〔学〕省の〔調査の〕方でも26日までに〔正しくは26日時点で〕15校が休校して、学級閉鎖などが91校というのもありましたけど、その中でやはり学級閉鎖した流れで不登校になってしまったりとか、そういう不登校児童の増加

とか、そういったところの影響というのは教育現場の方で聞かれたりとか、今年に入ってから〔不登校児童生徒が〕増えていたりとかという点もありますか。

教 育 長 〔不登校児童生徒数については〕不登校支援センターで随時把握しておりますけれども、コロナによってということなのか、そこはちょっと分かりません。ただ状況として増えているということと、それから〔本〕県については中学校よりも小学校の方が増加率というのは高い傾向にあるので、一人一人の状況によって、いろいろな理由があるので、一口にこうだというふうには言えませんけれども、いずれにしても個別最適に対応できるように、県としても不登校支援センター、それからその指導主事が、市町教育委員会と連携しながら、丁寧にですね、やっているつもりであります。

H T V 増えているというのは今年に入ってから増えているということですか。

教 育 長 増えているという、ここ5年で2倍に増えていますから、小学校なんかは。5年前にコロナがあったかというそうではないので、原因というのは分かりませんが、ただコロナ〔の影響〕ということも中には〔一定数〕いるかなと思います。今年に入ってというようなことではなくて、不登校のお子さんというのは30日以上休んだというようなことで言われていますけれども、例えば、起立性障害とかで午後から〔学校に〕来ているというお子さんもいますし、日数ではちょっと割り切れないというものがあると思います。一番どうにかしなきゃいけないのは、全く来ないお子さんですね。そこについては、何らかそのコンタクトを取って、孤立させないというふうに思っています。

H T V その対応というのもこれからも考えていくということですか。

教 育 長 もちろんです。これは絶対やっていきたいと思っています。

《イエナプラン教育校について》

H T V あとちょっとコロナとは全く別なんですけども、4月から福山市の常石小学校さんがイエナプラン教育をスタートすると思うのですけれども、そこでもお願いなんですけど。今、〔学校の〕現状というところを取材できないかなというふうに思っています。福山市の教育委員会さんとしては、忙しいからという話で、取材をお断りという話があるんですけども、やはり教育現場も公立学校として変化するという、公立だからこそオープンしなきゃいけないのかなというところもあるんですけども。取材をできればさせていただきたいなというふうに思うんですけど。

教 育 長 今はもちろんコロナのことがあるので。実は私も行けないんですよ。私も行きたいんですけども。ですので、現状を見ることはできませんけれども、4月以降はですね、イエナプラン〔教育〕校としてスタートいたしますので。もちろん、福山市が設置者なので、私の方では〔取材については〕申し上げられないんですけども、もちろん、県民の方々に知っていただくような機会は持たせていただきたいと思います。

H T V 〔イエナプラン教育校として開校前と〕その後とどう変わったのかというところが、今、特に移行期間であって、比較したいという思いもあるんですけども、事前に3月末までに〔取材〕というのをお願いしたいなというふうに思うんですけど。

教 育 長 それはね、変化はあまり出ないと思いますよ。3年前と今を比較しないとばちっと出ないと思います。今日からイエナプラン校だからと言って、今日と明日が変わるというようなものではなくて、学校の教育活動というのは不断の形でやっていますので、今、そういう意味で個別最適だとか、協働とかいうことを必死になってやっていますので。じゃあ3月31日と4月1日がすごくこう違うかといったら、そ

れはちょっと見られないかと思ひます。